



星  
ほし

宙  
ぞら

通  
つう

信  
しん

2024

11

月

浪合パーク  
2024,10,18発行  
#6

遅かった紅葉も終盤に差し掛かり、そろそろ冬の準備が始まる11月。

浪合パークの夜はいよいよ気温が一桁台に下がっていき焚火や暖房が活躍する季節がやってきます。11月といえば「しし座流星群」を狙いたいところですが、極大日の17日には満月過ぎの明るい月があり、おすすめとはいえません。

そこで5日に極大を迎える「**おうし座南流星群**」に注目。「南」とありますが、12日が極大日の「北群」もあり、11月上旬に両群合わせて**1時間に7~10個**ほどの流星が見られるでしょう。明るい流星の出現比率が高いので楽しみです

### 11月の夜空

- 1日(金) ● 新月
- 5日(火) おうし座南流星群(条件:最良)
- 7日(木) (二十四節気) 立冬
- 9日(土) ● 上弦
- 12日(火) おうし座北流星群(条件:悪)
- 16日(土) ● 満月  
水星が東方最大離角(光度-0.2等)
- 17日(日) 天王星が衝  
21時しし座流星群が極大(条件:悪)
- 22日(金) (二十四節気) 小雪
- 23日(土) ● 下弦

### 11月オススメ星座

みずがめ・うお・みなみのうお  
 ・ペガサス・ペルセウス  
 ・アンドロメダ・カシオペア  
 くじら・おひつじ・おうし・ぎょしゃ

### 今月見頃の天体

散開星団 ペルセウス座二重星団・すばる  
 球状星団 M15(ペガサス)・M2(みずがめ)  
 惑星状星雲 らせん状星雲(みずがめ座)  
 銀河 M31(アンドロメダ銀河)・M33など

### 今月の天体イベント①

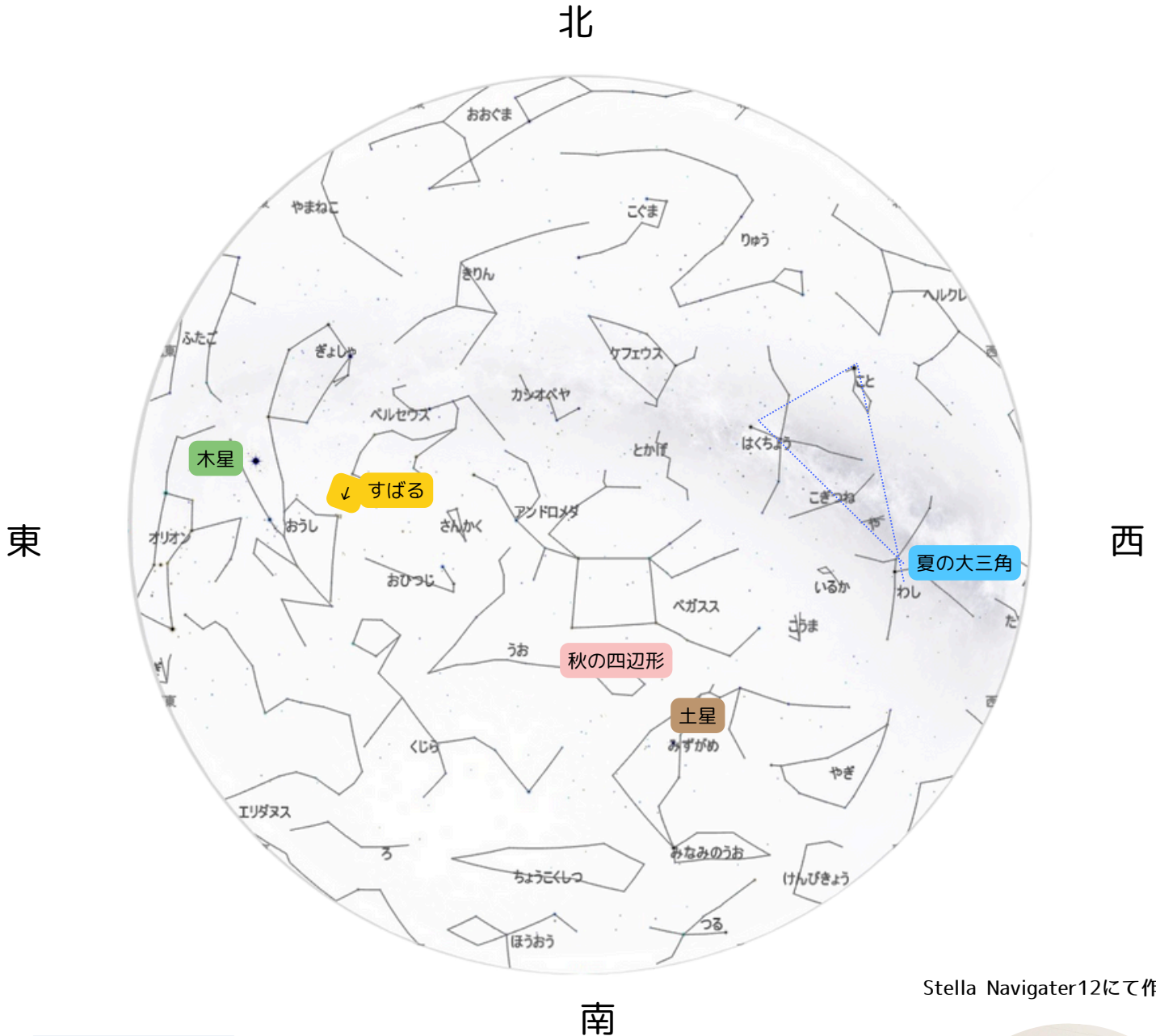
#### 水星が東方最大離角

「離角」とは「見た目、太陽からどれくらい離れているか」の角度です。「東方最大離角」は、「太陽から東側に一番離れて見える」=「**夕方の空に、日没後見つけやすい**」ことを教えています。これは、太陽系内惑星(地球の内側を回る惑星)金星・水星にのみ起こる現象です。内惑星は地球から見て、太陽の近くを「行ったり来たり」を繰り返します。特に水星は太陽に近いめなかなか見つけられません。この「最大離角」前後が見つけるチャンスといえます。「東方」では夕方、「西方」では夜明け前に見つけやすくなります。

「すばる」(フレアデス星団)が東の空に

11月は秋の星座ばかりか夏の星座もまだ見られるのですが、冬の星座も東の空に上がり始める季節で、「もうそんな時期か!」と、なんだかワクワクさせてくれます。

星座が横を向いて上がって来たり興味深いのですが、冬の一番手ともいえるのが、有名な「すばる」です。それと知らない人でも「あれ、なんだろう...?」と目を引く不思議な存在感です。「すばる」はプレアデス星団とも呼ばれ、星団を構成する星々にはプレアデス姉妹の名が付けられています。「すばる」を追い上げるようにオレンジ色の1等星アルデバランが、さらにオリオン座の三ツ星が、すばるに引き上げられるかのように上がってきます。この時期にしか見られない、冬星座の登場姿を、「すばる」の登場から楽しむことをおすすめします。



Stella Navigator12にて作成

記事を書いた人

星空案内人認定制度により、2015年に「星空案内人」となる。飯田市美術博物館プラネタリウム解説員として5年、阿智村「天空の楽園 ヘブンスそのはら」にて星空ガイドを6年担当。わかりやすい解説、もっと星を見たいくなる、知りたくなる星空ガイドを心がける。小さな天文学者の会会員。長野県プラネタリウム連絡協議会会員。



星空案内人 川手俊美